香川ニュービジネスクラブ
KNBCビジネスニュース　2025年8月　No. 805

「生成ＡＩ」について

一般社団法人日本経営士会会員
株式会社ビットコミュニケーションズ
日本経営士会四国支部　内海　信一

今回は、最近よく耳にする「生成 AI」についてお話ししたいと思います。まず、「生成 AI」とは何かについて、簡単に説明します。AI（人工知能）は、データを学習して、私たちの生活を便利にする技術です。その中でも「生成 AI」は、文字通り何かを「生成＝作り出す」ことが得意な AI です。例えば、文章で質問すると、自然な文章で答えを考えてくれたり、イラストのアイデアを伝えると、それに合った絵を描いてくれたりします。これは、AI が大量のデータを学習して、「こういうパターンのときは、こういうものを作ると良い」というルールを自動的に学んでいるからなんです。例えば、私たちが本をたくさん読んで、言葉の使い方を学ぶのと同じように、AI も膨大なテキストや画像のデータを学習することで、文章や絵を生み出せるようになっています。

では、生成 AI がどのように使われているのか、具体的な例をいくつか紹介しましょう。たとえば、仕事でメールを書くときや、ブログの記事を作るときに、生成 AI を使うと短時間で文章を作成できます。「こんな感じの文章を書いて」と指示を出すだけで、それに合った文章を考えてくれます。イラストを描く AI も人気です。例えば「夜の海に浮かぶ船の絵を描いて」と指示すれば、AI がイメージに合った絵を作ってくれます。デザイナーのアイデア出しにも活用されています。AI が作曲したり、動画を作成したりすることもできるようになっています。最近では、AI が映画の脚本を作るプロジェクトも進んでいるそうです。エンジニアの仕事でも、生成 AI が役立っています。「このプログラムのミスを直して」と AI に頼むと、修正案を提案してくれたりします。このように、生成 AI は、私たちの生活や仕事を助けてくれる便利なツールになっています。

しかし、便利な一方で、いくつか注意するべき点もあります。生成 AI はあくまでデータをもとに文章や画像を作るので、時には間違った情報を出すことがあります。AI が出した答えをそのまま信じるのではなく、自分でも確認することが大切です。また、AI が作った文章や画像にも著作権の問題が絡んでくることがあります。特に、他人の作品に似たものを作ってしまうことがあるので、使うときには注意が必要です。更に、AI に個人情報を安易に入力するのは危険です。例えば、住所や電話番号などを入力すると、どこかにデータが保存される可能性があります。安全に使うために、個人情報を含めたやり取りは控えた方がいいと思います。

生成 AI は、今後ますます進化していきます。すでに企業では、文章作成やマーケティング、デザインの分野で活用されていますし、教育や医療の現場でも導入が進んでいます。例えば、AI が生徒の質問に答えたり、医療の分野では診断の補助をしたりと、私たちの暮らしをより便利にする使い方が増えていくと思われます。一方で、AI をどう活用するかは、私たちの使い方次第です。上手に活用すれば、仕事や生活の大きな助けになりますし、逆に誤った使い方をすると、トラブルの原因にもなりかねません。大事なのは、「AI にできること」と「AI に任せてはいけないこと」を見極めながら、賢く使っていくことです。AI はどんどん進化していきますが、それをどう使うかは私たち次第です。便利なツールとして、上手に活用していきたいですね！

以上